変革と対応

経済学部長　砂川良和

卒業生の皆さん，おめでとうございます。大学では，それぞれ想い出深い人生のひとこまを過ごされ，感慨もひとしおのことと思います。

本日は大学生活に別れを告げ，新しい人生の第一歩を踏み出される日であり，希望と不安の交錯した複雑な心境のことと存じます。皆さん方がこれから生活される社会は，大学とはまったく異なった世界，というよりはむしろ何かにつけてより厳しい未知の世界ということができましょう。まさに「海図なき航海」への船出といったところでしょうか。未知の世界への出発には，多くの不安もつきまといましょう。しかし人間は誰しも太古の昔から，いやおうなく，快して後戻りすることのできない初めての人生を生きてきたのです。それは人間の宿命といってもよいでしょう。それゆえこれからの生活では，過去の経験や知識だけからは学ぶことのできない，多くの問題にぶつかることもありましょう。しかも今の世の中は，昔とちがって猛烈なスピードで変化しております。今の一年は，昔の10年，いや100年，200年にさえ相当するといわれております。こういっためまぐるしい予測できない変化にどう対応していくかが，現在各人に問われているのではないでしょうか。仮に経済や社会の変化など，各人を取り巻く環境の変化に，適切な対応を欠くことになりますと，それは古代マンモスと同じように滅亡の運命をたどらなければなりません。今様の言葉で申しますと，「化石類」の仲間入りということになります。そこで生き残っていくために必要なことは，変化に適切に対応していくということであります。ただ私たちを取り巻く環境の変化といっても，それはまことに複雑多様で，その対応といっても，また容易ではありません。環境破壊，国際環境の変化，めざましい技術革新，生活における価値観の変化など，まことに多様であります。加えて日本は，若者の国から老人の国へと変わりつつあります。まさに「日はまた沈む」ということになるのでしょうか。こういったいろいろの変化の相乗効果が大きなうねりとなって，私たちの前に怒とうのごとく押し寄せています。こういった状況の中では，各人は絶えず新しい知識や創造力を涵養していくことが要求されます。事態に即応できる柔軟な思考力，考える力を養うことが何りも大切と思います。これまで学校で学ばれたいろいろな知識や技術はもちろん大切です。しかしそういったことは，これからの生活にとってはほんの序の口といってよいでしょう。これからは，学生時代とは一味も二味もちがった異質の勉強をしなければなりません。同僚や異業種の方がたとの語らい，また世代を超えたあらゆる人びととの交わりの中で学ぶ機会が多くなることでしょう。そうした人間関係を通じて有益なヒントやヒラメキを得てすばらしい仕事と人生を得たという事例はいくらでもあります。日々これ新たにの心意気で，絶えず心身ともにリフレッシュし，不断の知識改革，意識改革を心がけて下さい。そうすれば皆さん方の将来は大きく開けてくることと思います。

最後に，ますます健康に留意され，いっそうの御活躍のほど心からお祈り申し上げます。